

「電気のふるさと」電源地域ニュース」では、電源地域のさまざまな取り組みを紹介しています。このコーナーでは、読者の皆様から寄せいただいたご意見・ご要望を積極的に誌面に反映させて参りますので、皆様の地域で取り組んでおられる事業や施策をぜひご寄せください。巻末にご返答いたします。ハガキも活用ください。心よりお待ちしております。

鹿児島

「きやんせふるさとフェスタ」で地域資源の再認識と情報発信
鹿児島県 薩摩川内市

鹿児島県薩摩川内市は、薩摩半島の北西部に位置し、平成16年10月に旧川内市を中核とする1市4町4村の合併により誕生しました。南は県都鹿児島市といちき串木野市、北は阿久根市に隣接する本土区域と、上甕島、中甕島、下甕島から成る甕島区域とで構成されています。

「きやんせふるさとフェスタ」は、平成16年3月に九州新幹線、肥薩おれんじ鉄道開業記念として始まったイベントです。川内駅周辺の整備に伴い、新たな情報発信スペースとして駅前広場が新設され、人・物・情報などの流れが大きく変わり、様々な分野で交流の拡大が図られることが



終日賑わいを見せた川内駅前のフェスタ会場

期待されます。そこで、市内外への情報発信、歴史・食・文化等の再認識ならびに観光・商業等における地域活性化を図ることを目的として、毎年大々的に開催しています。

3回目となる今年は、川内駅前西口広場をメイン会場とし、ピアニストの木下航志さんのステージショーや郷土芸能等の披露を実施。また、市内をロケ取材した映像を大型スクリーンに映し出して「きやんせふるさとクイズ大会」を行ったほか、訪れた方が市街地へも足を運んでいただけるよう川内駅からの通り沿いに特産品展や物産展を設置しました。さらに川内高城温泉と市比野温泉の温泉を運んで足湯コーナーを新たに設置したほか、商店街の皆さんによる独自のイベントもあり、市内全体で盛り上がることができました。

(電源立地地域対策交付金活用事業)

お問合せ先
薩摩川内市 観光課 観光振興係
TEL 0996-23-5111

宮城

伊達なわたり生き生き大賞
～「やる気・本気・元気」のあるものづくりからまちづくり～
宮城県 亘理町

宮城県亘理町は、東北一の生産量を誇るイチゴや地元漁港で水揚げされた新鮮な魚介類、仙台湾岸で唯一の温泉「わたり温泉鳥の海」を中心に広域仙台都市圏南部地域の観光拠点となっています。

同町では平成11年11月、産業づくり戦略の一環として「やる気・本気・元気」のある企業家商業家等の創出と、新商品・新技術開発意欲の向上のため、新商品開発コンクール「伊達なわたり生き生き大賞」を初めて開催しました。

その後もコンクールは毎年継続。賞金総額は87万円、グランプリ賞金は30万円で、町内



「伊達なわたり生き生き大賞」審査風景

在住の個人や企業、組合やクラブ等どなたでも参加ができ、対象製品は過去5年以内に町内で製造や加工を行ったものとしています。

このコンクールをきっかけに自宅に加工場を整備した方、農家レストランをオープンした方が見られたほか、漁業者のお母さん団体においては、魚介類の加工販売所「浜っこあちゃん市」を月2回開店するなど、新たな活力を見出すきっかけになっています。

毎年3月初旬に開催する同町の地場産品を一同に集めた「伊達なわたりまるごとフェア」では、歴代の入賞作品や新商品が各店頭に並び、新商品を開発する意欲が地域のコミュニケーションに、ものづくりが生きがいと元気のあるまちづくりに繋がっています。

(電源地域産業育成支援補助金活用事業)

お問合せ先
亘理町 企画課
TEL 0223-34-0505

静岡

商店街活性化へ職員による特派員制度を導入
静岡県 掛川市

静岡県掛川市では、平成17年7月1日から旧1市2町(掛川地区、大東地区、大須賀地区)の各中心商店街の再生支援のために「商店街活性化現地特派員事業」をスタートさせました。

この事業は、各地区の中心市街地に市の職員を特派員として1名配置し、

- ・個々の商店の抱えている課題や要望の聴取
- ・聞き取り調査により得られた情報の分類整理、内容の検討
- ・検討結果に基づくアドバイス・各種行政施策の紹介
- ・先進事例・先進地の紹介
- ・月例特派員連絡会の開催
- ・月例市長報告会の開催

などを行いながら街の活性化を図ろうという全国の市町村の中でも先駆的な取り組みです。

3名の特派員は各地区の商店を訪れ、その現状や問題点を把握するだけでなく、商工団体との連携強化に努め、商店から活性化の提案や要望があれば、事業化についても検討するなど、積極的に支援を行っています。

掛川市が当事業に踏み切った背景には、これまでに策定した商業振興計画が必ずしも意図するとおりに運んでいな



商店を訪問する大東地区特派員の佐藤さん(右)。赤いジャンパーがトレードマーク。

お問合せ先
掛川市 商工観光課
TEL 0537-21-1149

いという状況や、従来の行政主導型の計画立案・事業実施では、商店が自らの意欲で参加していないのではという反省があります。商店は自らの商店街の現状や抱えている問題・課題を認識し、それに対し自治体職員が助言や提案などを行い、結果的に商店の経営意欲向上につなげようと考えたのです。

大東地区の特派員である佐藤行秀さんは、大東町商工会を拠点とし、約320店舗を訪問しています。「商店を飛び込みで訪問し、直接話を伺うことで、机上とは全く別の視点から考えることができます」と佐藤さん。「商店街によって違う振興に対する意識や、即効性を求める声に悩むこともあります。『商店街が明るくなった』『特派員に言ったら何とかしてくれた』という皆さんの声に励みになっています。今後も一人ひとりが地域を盛り上げる気持ちになれるよう頑張りたい」と目を輝かせます。

本年2月23日には、各地区の商店街関係者や特派員、オブザーバーとして戸塚市長が出席し、「中心商店街活性化研究会」の初会合が開かれ、従来はあまり交流のなかった3地区の関係者が現状や活動を報告するとともに、活発な情報交換が行われました。

市町村合併を終えた掛川市は今、歴史的背景や都市基盤整備の経緯が異なる3つの地区が団結し、良い点、改善点を互いに指摘しあいながら新しいまちづくりを進めており、各地区の商店街では背中に「商店街が面白い!」と書かれた赤いジャンパーの特派員が、御用聞きとして飛び回っています。

いきいき電源地域

地域振興に取り組んでいる
電源地域の元気な姿を紹介します